

## The 7<sup>th</sup> European Breast Cancer Conference (EBCC)

淡河恵津世

2010年3月24～27日の間、EBCCに出席のため、スペインのバルセロナへ行って参りました。この学会は、2年毎に開催されていて、EORTC (European Organization for Research and Treatment of Cancer) と関係がある学会です。ですから、ヨーロッパにおける cancer 関係の学会は、本年度はバルセロナを中心に開催されるということのようです。従って、同年9月に開催される ESTRO (European Society for Therapeutic Radiology and Oncology) も、同じ場所であるわけです。9月の ESTRO は、早渕教授も含めて治療班が発表に行きますので、私は、下見も兼ねてという感じでした。(早渕教授からは、「良さそうなホテルを見てきてね」と言われてましたし...) 久留米からの渡航メンバーは、乳腺班の諸先生(唐先生、岩隈先生、大塚先生)と先端がんセンターの関先生、私の合計5人でした。福岡国際空港→仁川空港→アムステルダム→バルセロナという長旅で、バルセロナのホテルに着いたのは真夜中でした。学会会場は、海岸沿いの市街地から離れた場所でした。



写真： 私・岩熊先生・唐先生・関先生

偶然に FC バルセロナ (通称バルサ) の試合があるとのことで、到着後にスタジアムに行きチケットを購入し、間近でメッシーを見ることができたので、とても良い記念になりました。でも、試合が午後の8時から始まり、終わるのが10時過ぎ。それはいいのですが、帰

りの地下鉄の中で、同行メンバーの携帯電話がすられてしまい、一時的に相互の連絡ができないというハプニングも発生。しかし、幸いにお財布を取られる事件はなかったし、危険なことはなかったのも、まあ～「よし」としなければなりませんね。今回は、ず～っとバルセロナで過ごしたので、学会の間に、あちらこちらの観光もできました。おなじみのピカソ美術館、アントニオ・ガウディの建築物（サグラダ・ファミリア聖堂、グエル公園、カサ・ミラ、カサ・バトリョ）、サン・パウ病院（サグラダ・ファミリア聖堂と向かい合うように建っている、1930年に完成した世界遺産の病院～驚くことに現在も病院として機能している）カタルーニャ音楽堂、ミロ美術館...とここまで書くと、何しに行ったの？と言われてそうですが、これらは、地下鉄を使って行けるので、とても便利でした。サグラダ・ファミリア聖堂の総合監督は外尾さんという日本人の彫刻家であることは有名ですが、やはり、（以前にも書きましたが）古い部分を大切に修復しつつ、新しい部分を作っていくことの壮大さを感じずにはいられません。人間は、完成に向けて努力するものですが、未完成さの中に魅力を残しつつ、次世代に託していくこと大切さを再度感じた私でした。



サグラダ・ファミリア聖堂



サン・パウ病院

学会は、教育講演もあり、放射線治療の討論も活発で、面白く聞くことができました。放射線治療のセッションの最後の挨拶が「続きは9月のESTROで話しましょう～！」でしたが（笑）・・・内容では、局所照射の演題が多かったように思います。そして、術中照射（写真）の長期経過についても興味深い発表でした。それから、若年者乳癌の治療方針としてのセッションは、海外でしか聞けない内容もあり、日常診療において大変参考になるものばかりでした。



術中照射機器（日本での展示はみたことない！）



実は、2002年に同じ学会でバルセロナに行ったことがありますので、私にとっては2回目でしたが、バル（レストラン）に入ってビールとタパス（小さな小皿に一品料理）をつまむという楽しい時間を過ごすことができ、勉強もさることながら、このような貴重な経験をさせていただいたことに心より感謝いたします。



このレストランは美味しいので、バルセロナに行かれる時には寄ってみてください(\*^\_^\*)

追記：

飛行機の中で読んだ雑誌の中で、旅行ジャーナリストの兼高かおるさんのエッセイが心に残りましたので、ちょっと書き留めておきます。彼女は、海外旅行が非日常だった頃、日曜午前に放送されていた旅番組「兼高かおる世界の旅」で31年間レポートをしていました。

（Grazia No.179）

「僻地に行った時、そこの子供たちに将来何になりたいかと聞くと、『医者になりたい』『先生になりたい』という答えが多いのです。人が困っているのを助けたいという想いが、人間には潜在的にあるんだと思います。それが、大人になるにつれて変わってしまう。ま

た、経済が発達して国が豊かになっていくと、そうした想いも失なわれてしまうのでしょ  
う。」

「日本人のマナーは大したものなのです。相手を立てる、尊重することを、日本人は心の  
ベースに持っていますでしょう。(中略) 私たちが親やまわりの大人から自然に受けた教  
育は、実は大したものなのです。」

非常に個人的な意見ですが、海外に行ったら、自己主張しなければならないと思ひこむ  
人がいますが、そうではないように思います。日本は島国の単民族ですから、言わなくて  
も何となくわかることもあります。外国は、そのほとんどが多民族だから、自分がどう  
なのか伝えないと解らないだけなのだと思ひます。日本人の民族性は素晴らしいので、こ  
れを大切にしつつ、科学していきたいな〜と旅をすると思うわけでございます。

おしまい。